

こどもケンチクの新聞

第18号 (後編)
2024年10月
編集発行：こどもケンチク新聞社

講座 レポート



「メディアリテラシー講座」

に参加しました！
メディアリテラシーとはメディアを通じてコミュニケーションをする力のことです。
今回は、情報を受け取る側だけでなく、発信する側としても大切なことを下村健一さんに学んできました。その講座の様子をレポートします。

第一部 知らない真相を見分けよう！ 情報に流されない！「4つのジュモン」

みなさんはスマホを持っていきますか？普段スマホを見ている時、メディアやSNSの情報がかんたんかわからなくて困ったことはありませんか？
第一部では、情報に振り回されないようにするための、情報の受け取り方を教えてもらいました。

情報を受け取る時の 4つのジュモン 「ソ・ウ・カ・ナ」

- ソ** 断するな
まだわからないよね
- ウ** のみにするな
意見・印象じゃないかな
- カ** たよるな
他の見え方もないかな
- ナ** かだけみるな
隠れてるものはないかな

情報が来たら、一旦止まってみよう！

「まだわからないよね」情報が来たら一旦止まってみよう！

情報は本当かウソかすぐに決めつけられないで、自分が発信して、デマを広げてしまう可能性もあります。

注意が必要な情報は**3密**(密集・密接・密閉)です。密集はみんな言ってるから、密接は友達と言っているから、密閉はひとつひとつから、という情報です。情報は「人数」ではなく、「種類の数」が大切です。

一旦止まって見た情報の事実を確かめよう。

「この人の印象じゃないかな」情報は事実か発信した人の印象か見分けよう！

印象は事実とは違うので、見分けることが必要です。例えば、「Aさんは、何かを隠すような表情で、報道陣を避けるためか、裏口から逃げるように出ていきました。」という報道があったとします。しかし、印象を除くと「Aさんは裏口から出ていきました」になります。情報のなかにある、発信した人の印象の「かも」の部分を探して、事実と分けて考えましょう。

③ 事実に見えても、他の見方を探そう

「他の見え方もないかな」立場や角度、順序を変えてみよう！

例えば、「①走っている犬」の次に「②走っている人」を見ると、人が犬を追いかけているように見えます。しかし、逆の順序で見ると、犬が人を追いかけているように見えます。情報の順序も大切です。




■参加した講座
コドモチョウナイカイ主催
「小学校高学年から中高生のためのメディアリテラシー講座 (全4回)」
「第1回 メディアリテラシー教育の視点から一窓を広げて考えよう！！情報を受け取る時の、4つのジュモン」

■開催日時
2023年8月8日

■開催場所
SHIBAURA HOUSE

■講師
下村健一さん
TVキャスターとして活躍後、内閣審議官として政府の情報発信に従事。現在は令和メディア研究所主宰、幅広い年代のメディア・情報教育に携わっています。



④ 別の情報は無いかな 隠れている物を探そう

「隠れているものはないかな」切り取られた情報だけを見ずに、広く見渡そう！

メディアはある情報にスポットライトを当てて伝えていますが、スポットライトが当たられて明るく見えている情報だけではなく、暗がりにも目をやると、全体が見えて、事実が見つかることがあります。



発信する側の工夫

さらに、発信する側が情報をしっかり届けるための、四つのポイントも教えてもらいました。

- ①何を伝えたいか「明確さ」
- ②決めつけていないかな？「正確さ」
- ③傷つけていないかな？「優しさ」
- ④これで伝わるかな？「易しさ」

思いやりを持って発信すると、わかりやすく、相手に届きやすい発信になります。

第二部

第二部では講座で教えてもらったことをもとに、印象に残ったことや考えたことをそれぞれ書いて発表しました。
「全てを疑わない、全てを信じない。」
「情報を伝える上でも、思いやりが必要」など、様々な考えが飛び交い、それについて下村さんと意見交換しました。

記者たちが印象に残ったこと・これからの取材の心構え

From Yuzu

スポットライトのまわりも見て、理解することが大事!!



私は「情報は、正しいとも正しくないとも決めつけてはいけない」という言葉にハッとしました。情報は正しいかどうかわからないと思ってしまうのは、疑ってしまうのも思い込みの一つだと思います。これからは、情報を受け取った時に、その正しさを見極めるのに加え、自分が決めつけをしていないかという点にも注意を払いたいと思います。

From Aoi

思いこみの小窓をこわし、広い景色を見よう!!



私はニュースはもちろん、信頼している友達からの情報は正しいと思っていました。でも、今回の講座を受けて、人を見て判断するのは、情報に対して広い視野を持ち、様々な立場から判断しなければいけないということに気が付きました。そして、情報を発信する時は、相手に伝えたことが届くように、思いやりをもって発信していきたいです。

新聞はもちろん、建築でも、いろいろな立場から考えたり、思いやりを持って伝えようと、いい作品を作っていきたいですね！